13日　火曜

伝道者の書

3:1 すべてのことには定まった時期があり、
天の下のすべての営みに時がある。
3:2 生まれるのに時があり、死ぬのに時があ
る。植えるのに時があり、植えた物を抜くの
に時がある。
3:3 殺すのに時があり、癒やすのに時がある。
崩すのに時があり、建てるのに時がある。
3:4 泣くのに時があり、笑うのに時がある。
嘆くのに時があり、踊るのに時がある。
3:5 石を投げ捨てるのに時があり、石を集め
るのに時がある。抱擁するのに時があり、抱
擁をやめるのに時がある。
3:6 求めるのに時があり、あきらめるのに時
がある。保つのに時があり、投げ捨てるのに
時がある。
3:7 裂くのに時があり、縫うのに時がある。
黙っているのに時があり、話すのに時がある。
3:8 愛するのに時があり、憎むのに時がある。
戦いの時があり、平和の時がある。
3:9 働く者は労苦して何の益を得るだろうか。
3:10 私は、神が人の子らに従事するようにと
与えられた仕事を見た。
3:11 神のなさることは、すべて時にかなっ
て美しい。神はまた、人の心に永遠を与えら
れた。しかし人は、神が行うみわざの始まり
から終わりまでを見極めることができない。
3:12 私は知った。人は生きている間に喜び楽
しむほか、何も良いことがないのを。
3:13 また、人がみな食べたり飲んだりして、
すべての労苦の中に幸せを見出すことも、神
の賜物であることを。
3:14 私は、神がなさることはすべて、永遠に
変わらないことを知った。それに何かをつけ
加えることも、それから何かを取り去るこ
ともできない。人が神の御前で恐れるよう
になるため、神はそのようにされたのだ。
3:15 今あることは、すでにあったこと。これ
からあることも、すでにあったこと。追い
求められてきたことを神はなおも求められる。

Bible Reference 聖書の記述

人々が神様の存在を認められない要因としては、その存在があまりにも偉大なので、人間の五感では感知できないところにあるでしょう。そしてまた神の法則性も人間にはわかりづらいものです。しかし、著者は「何事にも定まった時期が」あると述べて、神の働かれる時のみわざを暗示しています。人は先の未来を予見することはできませんから、何をするにも暗中模索の状態ですが、神様は全てを予見しまた導かれる方なので、「定まった時期」とは、神様の最善のタイミングです。

確かに「働く者は労苦して何の益を得よう」と言いたくなるほど、むなしく先が見えない人生ですが、しかし神が存在しておられます。その神様が私たちに「労苦させる」のです。必ず「時にかなって美しい」みわざで、美しい人生にしてくださるのです。

ただし「人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない」ので、神への信仰が問われるのです。「見きわめられない」からといって、神を認めなければ「むなしい」人生に「絶望」しなければなりません。一方神を認めて信頼するなら、「時にかなっ」た「美しいみわざ」を体験できるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？